サッカー

（那覇新都心公園多目的広場会場）

▽決勝

小禄 4（1－0、3－2）2 大宮

ハンドボール

（豊見城市民体育館）

【男子】

▽準決勝

浦西 26（16－12、10－13）25 神森

仲西 30（13－18、17－9）27 沖縄東

▽決勝

仲西 30（16－14、14－12）26 浦西

【女子】

▽準決勝

仲西 22（14－10、8－10）20 神森

美東 27（8－6、19－10）16 南風原

▽決勝

美東 22（10－8、12－8）14 仲西

ぶりの優勝を果たした小禄

男子仲西 10年ぶりV ハンド

攻撃連係 序盤に主導権

焦点

序盤から連係が決まって右サイドの大城風真の連続点でリードした仲西。いつものスロースターターからは一転、各選手が「今日はチームの雰囲気が良かった」と振り返るように、声が飛び交い、攻撃がつながった。先手必勝で主導権を握ると、高岡信雄監督が「今日は上出来だ」と認めるように、修正してきた浦西を上回った。

守備は5―1。トップに島尻湧太を据えてコンパクトにボールに寄りつつ、相手が合わせてきたら横一線で迎え撃つ。浦西のシューターに重圧を与える約束事は「しっかりできたとは言えない」と島尻は言うが、全員で持ちこたえた。

攻撃は主将の下地侑帆が起点となり、島尻や西原碧葵らバックプレーヤーとクロスしながら相手守備を引きつけ、ポストの積太陽が「練習からセットプレーに力を入れてきた」と守備裏のフリーでしっかり決める。後半に入ると、守備を引き締めた浦西に攻めあぐねる時間もあったが、下地が左サイドに回ったり、ダブルポストにしたりと攻撃範囲を広げ、ハーフコートの攻撃でも競り勝った。

下地は「点が決まるとベンチも応援席も盛り上がり全員が一体となって楽しい試合だった」と控えめに喜んだ。10年ぶりの優勝で全国に挑むGK堤隼斗は「皆が心を一つにしてしっかり結果と思い出を残したい」と気を引き締めた。

（嘉陽拓也）

男子決勝　仲西―浦西　連係からフリーでシュートを放つポスト積太陽（仲西）＝24日、豊見城市民体育館

美東連覇 見せた成長 女子

○…美東は西田こころと比嘉聖のパス回しや個人技、名嘉陽菜のシュート力でスタートダッシュに成功。仲西の出鼻をくじくと後半は控えメンバーも出場させての完勝だった。平良徳彦監督は「春季選手権は出だしから苦しい展開だったが今日は、最初から良い戦いができた。春から一皮むけたプレーだった」と胸を張った。

バックプレーヤー3人の戦力に加え、2年から本格的に競技を始めた比嘉えみながが右サイドで存在感を発揮。「ハンドを始めたら楽しくて。サイドシュートに力を入れてます」と、厳しい角度でも積極的に決めていった。西田主将は「全員が強くなりボールもつながった。九州大会では常に美東のハンドで勝ち抜き、全国大会へつなげたい」と笑顔で語った。

女子決勝　美東―仲西　守備からの素早い攻撃で点を決める比嘉聖＝24日、豊見城市民体育館

男子の部で優勝した仲西のメンバー

女子の部で優勝した美東のメンバー

長嶺主将は「県代表として長嶺真輝）

プレーをし、全国に行く」なる飛躍を誓った。